

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年8月6日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	7月の価格情報				8月の価格情報	7月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	8月の主産地	生育及び価格の8月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬	中旬					
葉茎菜類	キャベツ	77.90	79	77	115	77.90	・10,506t (76%)	群馬(79)	<p>群馬産は、最近の高温・少雨の影響により生育が遅延して小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 高温・少雨の影響により7月下旬から値を上げて現在平均を上回っている価格は、群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		88.91	84	79	119	88.91	・3,579t (73%)	群馬(70)	
	たまねぎ	102.67	79	83	87	102.67	・4,694t (113%)	北海道(48)、兵庫(27)、佐賀(14)	<p>出荷終盤を迎える兵庫産及び佐賀産は、収穫が終了して貯蔵物からの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。後続産地である北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育は停滞したものの、初期生育が前進していたことから、平年並みの出荷の見込み。 流通在庫が徐々に減少する中、7月に入り徐々に値を上げており、兵庫産、佐賀産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均並みで推移する見込み。</p>
		102.67	85	88	89	102.67	・2,908t (108%)	兵庫(66)、北海道(21)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	313	356	324	287.00	・1,526t (87%)	茨城(31)、青森(18)	<p>茨城産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、6月以降の長雨・日照不足により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		462.77	301	383	510	462.77	・145t (66%)	香川(37)、徳島(19)	
	はくさい	58.82	60	59	94	86.06	・2,941t (78%)	長野(95)	<p>長野産は、最近の高温・少雨の影響により生育が遅延して小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 高温・少雨の影響により7月下旬から、値を上げて現在平均を上回っている価格は、長野産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		62.79	60	61	99	88.72	・1,534t (63%)	長野(100)	
	ほうれんそう	583.95	511	682	768	583.95	・382t (80%)	群馬(29)、栃木(27)	<p>群馬産及び栃木産は、最近の高温・少雨の影響により病害がでてきていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 関東産は高温の影響で入荷が減少し、7月に入り値を上げて現在平均を上回っている価格は、群馬産及び栃木産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		670.86	618	732	782	670.86	・168t (71%)	岐阜(74)	
	レタス(結球)	120.13	87	93	156	158.27	・5,633t (87%)	長野(89)	<p>長野産は、最近の高温・少雨の影響により不結球や傷みが発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 高温・少雨の影響により7月下旬から値を上げて現在平均を上回っている価格は、長野産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		125.61	89	97	171	152.57	・1,421t (69%)	長野(97)	
果菜類	きゅうり	232.28	284	405	302	232.28	・5,224t (111%)	福島(43)、岩手(24)	<p>福島産は、最近の高温・少雨の影響により病害がでてきていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。岩手産は、6月上中旬の低温や同月下旬以降の曇雨天により生育が遅延したことに加え、最近の高温・少雨の影響により樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 6月の低温・曇雨天や7月の高温・少雨の影響で7月に入り値を上げて現在平均を上回っている価格は、福島産及び岩手産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		244.44	263	418	321	244.44	・1,615t (106%)	福島(36)、北海道(23)	
	トマト(大玉)	265.08	267	281	306	265.08	・5519t (95%)	青森(20)、北海道(18)	<p>青森産は、6月の天候不順により花落ちした段の出荷となっていることから、現在平年を下回る出荷となっているものの、今後は花落ちしていない段の出荷となることから、平年並みの出荷の見込み。北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育及び着色が遅れたことから、現在平年を下回る出荷となっているものの、その後の好天により生育が回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 青森産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。</p>
		298.46	274	293	322	298.46	・2,042t (103%)	岐阜(42)、北海道(30)	
	なす	242.04	330	348	311	242.04	・3,082t (108%)	群馬(35)、栃木(31)	<p>群馬産及び栃木産は、7月中旬以降の少雨で生育の遅れはあったものの、最近の降雨で生育は回復していることから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。 群馬産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、お盆もあり需要は底堅いことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		232.81	293	341	349	232.81	・852t (84%)	山梨(30)、徳島(20)	
ピーマン	290.48	467	468	459	276.76	・938t (88%)	岩手(46)、茨城(19)	<p>岩手産及び茨城産は、最近の高温・少雨の影響により病害がでてきていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 岩手産及び茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>	
	307.99	432	445	454	296.27	・381t (76%)	大分(21)、青森(20)		
根菜類	だいこん	94.60	81	118	126	94.60	・2,883t (65%)	北海道(76)	<p>北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により生育不良、播種遅延となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 東北産が雨の影響で入荷が減ったことから7月中旬以降値を上げて現在平均を上回っている価格は、北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		90.60	78	111	119	90.60	・1,419t (72%)	北海道(80)	
	にんじん	133.01	107	141	154	123.08	・2,415t (102%)	北海道(87)	<p>北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により生育が遅延しているものの、8月中旬以降作付面積を増加した産地の出荷が始まることから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。 北海道産及び東北産が長雨・日照不足の影響で入荷が減ったことから7月中旬以降値を上げて現在平均を上回っている価格は、北海道産の出荷が平年並みと見込まれることや学校給食需要もなくなっていることから、今後は平均並みで推移する見込み。</p>
132.62		112	153	154	123.11	・1,125t (117%)	北海道(96)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL : https://www.aic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の高温・少雨により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	7月の価格情報					8月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	7月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	8月の主産地	生育及び価格の8月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 → 現時点の価格水準 → 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格									
	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬	中旬	下旬						
いも類	さといも	361.20	433	466	369	280.27	・41t (109%)	千葉(66)、宮崎(23)	→	千葉産は、順調な生育であることから、平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、一部に病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。
		347.90	538 (120%)	489 (129%)	312 (102%)	242.12	・28t (130%)			
	ばれいしょ	117.36	69 (59%)	79 (67%)	78 (66%)	117.36	・1,412t (70%)	北海道(72)、茨城(10)	→	茨城産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。後続産地である北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育の停滞があったものの、初期生育が前進していたことから、平年並みの出荷の見込み。
		117.36	77 (66%)	83 (71%)	82 (70%)	117.36	・543t (69%)	北海道(91)	→	北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年を上回ると見込まれることに加え、流通在庫も多いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の高温・少雨により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	7月の価格情報					8月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	7月下旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	8月の主産地	生育及び価格の8月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 → 現時点の価格水準 → 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格									
	東京都・大阪市場の旬別価格	上旬	中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	384.87	508 (132%)	478 (124%)	390 (101%)	384.87	・510t (90%)	北海道(78)、長野(12)	→	北海道産は、一部の地域で雪解けが遅く定植が遅れたことに加え、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育や定植が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。長野産は、7月中旬以降の高温及び少雨の影響により生育不良となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。
		412.22	541 (131%)	512 (124%)	452 (110%)	412.22	・168t (117%)	北海道(60)、長野(16)	→	高温で一時的に需要が減少して現在価格は平均並みに推移しているものの、長野産及び北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の高温・少雨により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

2 野菜の輸出入動向 ー 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について ー

〇輸入について	野菜の輸入数量						野菜の輸出数量									
	野菜全体の輸入量(平成30年6月)						野菜全体の輸出量(平成30年6月)									
	区分		平成28年		平成29年		平成30年		区分		平成28年		平成29年		平成30年	
			前年比	前年比	前年比	前年同月比					前年比	前年比	前年同月比			
貿易統計によると、平成30年6月の生鮮野菜の輸入量は、6万9千トン(前年同月比86%)となり、前年からやや減少した。また、加工野菜は、16万5千トン(同98%)であり、野菜全体では、23万4千トン(同94%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で11万5千トン(同92%)と輸入量の49%を占めた。	野菜の輸入数量						野菜の輸出数量									
6月の輸入量は、昨秋の天候不順による野菜の高騰を受け輸入が前年を上回っていたが、国産野菜の順調な出荷により価格が低下したことから、輸入量は先月から前年を下回って推移し始め、今月も前年を下回った。	野菜全体の輸入量(平成30年6月)						野菜全体の輸出量(平成30年6月)									
当月における品目別の動向をみると、輸入量が第1位の品目であるたまねぎは2万7千トン(同78%)、第3位のにんじんで6千トン(同75%)と減少した。第2位のかぼちゃは7千トン(同126%)と増加したものの、その他の主要輸入品目であるねぎ、ごぼう、しょうが、メロンといったものは減少しており、全体的に先月から引き続いて輸入量が減少している傾向である。ただし、昨秋の天候不順による野菜の高騰を受け輸入量が前年を上回って推移したことを踏まえると、今般の高温・少雨等により、卸売価格が高水準で推移する可能性があることから、今後の輸入動向を注視していく必要がある。	主な生鮮野菜の輸入先(平成30年6月)						主な生鮮野菜の輸出先(平成30年6月)									
〇輸出について	同(平成29年6月)						同(平成29年6月)									
6月の輸出量は、生鮮野菜は969トン(同164%)、加工野菜は1,047トン(同134%)となり野菜全体では2,017トン(同147%)と大幅に増加した。	同(平成29年6月)						同(平成29年6月)									
生鮮野菜の輸出の主力品目である長いもは特に好調であり、6月の輸出量は621トン(同186%)となった。しかし、円安の影響で輸出単価は1キロ当たり331円(同54%)と低く推移している。	同(平成29年6月)						同(平成29年6月)									
また、結球レタスの輸出量としては25トンと少ないものの前年と比べて1013%となっている。前年の輸出実績をみると主に台湾に向けて6月から9月にかけて輸出されており、年合計で98トンとなっている。今後の伸びが期待されることである。	同(平成29年6月)						同(平成29年6月)									

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。